

4.14

スタートアップ業界のトップランナーが神戸に集結

Beyond Limits 2026 Spring

スタートアップ業界のキーパーソンが集まるカンファレンス「Beyond Limits 2026 Spring」を兵庫県、起業プラザひょうごなどと共催した。

基調講演では、産業用ドローンサービス企業として世界ランキング第1位を獲得したTerra Drone(株)代表取締役社長の徳重徹氏が登壇。徳重氏は、「米国や中国では近年生まれたスタートアップが巨大企業になっているが、日本は遅れている。国内市場を押さえてから海外に行くのでは遅すぎる。世界で勝つにはマルチプル、多重的に展開すべき」と強調。また、「人を育てるにはあえて修羅場を与え

るべき」と若手にチャレンジの機会を与える重要性を語った。

また、投資家によるパネルディスカッションでは、「起業家はIPO（新規株式公開）を目指すべきか」をテーマに、IPOの条件や上場のタイミングなどについて意見交換が行われた。最後は、東京や大阪で活躍する、成長期待の高いミドル・レイターステージのスタートアップ5社によるピッチを実施。交流も活発に行われ、ネットワーク拡大や企業間の連携につながる機会となった。



産業部産業振興チーム

4.22~23

台北市進出口商業同業公會が来神、ビジネス交流を促進

海外就航都市との経済交流事業

台湾最大の貿易業界団体である台北市進出口商業同業公會（会員数6,600社、会員の取引総額が台湾貿易の約4割を占める）の訪問団が、当商工会議所や神戸の企業とのビジネス交流を目的に来神した。昨年10月に川崎会頭が台湾トッププロモーションとして同會を訪問したことを契機に実現したもの。

懇談会では、神戸市経済観光局が神戸のビジネス環境を紹介し、両地域のビジネス連携の方策について活発な意見交換が行われた。川崎会頭は、「空路で結ばれた強みを活かし、継続的にビジネス交流を積み重ねることこそが両地

域の企業のつながりを深める」と語り、参加者間の交流を呼びかけた。

訪問団は、神戸医療産業都市のほか、台湾に展開するUCC上島珈琲(株)の六甲アイランド工場など市内製造業5社を視察。当地企業の高い技術力と製品開発力に深い関心を示した。

当商工会議所では、神戸空港の国際定期便就航を見据え、台湾・韓国など就航都市との経済交流促進に引き続き注力していく。



産業部国際チーム

5.7~8

空港を核とするまちづくりのあり方を学ぶ

神戸空港委員会 熊本視察会

神戸空港委員会は、TSMCの進出以降、台湾との交流活発化によってインバウンドが増加している阿蘇くまもと空港など熊本方面の視察会を実施した。

阿蘇くまもと空港は、2016年の熊本地震からの創造的復興のシンボルと位置付けられ、2023年には新旅客ターミナルビルが開業した。旅客ターミナルでは、搭乗直前まで満喫できる店舗群や国内線・国際線供用エリアなどが特徴的な国内初の滞在型ゲートラウンジのほか、2024年に開業した賑わい空間「そらよかエリア」などを見学した。

あわせて、熊本県庁を訪問し、空港周辺地域の産業集積

や空港アクセス鉄道開通へ向けた動きなど、空港を核とするまちづくり戦略の説明を聴講。また、熊本商工会議所都市戦略委員会との懇談を実施し、台湾の大学と連携したインターンシップ事業などの事例をもとに、地元企業の人材確保につながる取り組みについて意見交換を行った。

神戸空港委員会では、こうした視察や調査研究活動を進め、地域経済活性化に資する神戸空港の機能のあり方や周辺エリアの利活用方法などについて意見提案を取りまとめることとしている。



地域政策部

4.21

伍魚福の経営について学ぶ

女性会4月月例懇談会



女性会は、(株)伍魚福代表取締役社長の山中勲氏を講師に迎え、定例の月例会を開催した。

山中氏は、「神戸で一番おもしろい会社を目指す」というスローガンに込めた思いや、その実現に向けた同社の取り組みについて紹介。ブランディングの重要性や商品開発の仕組み、社員の人生を豊かにする組織づくりなど、幅広い視点で経営について語った。

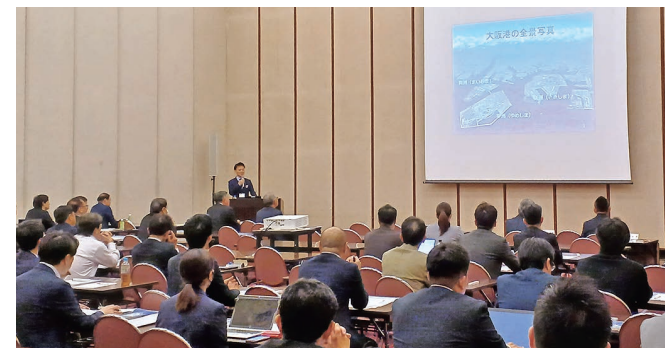
参加者からは、「顧客に価値を届ける商売の基本を再認識できた」「商品力だけでなく、社員との共創や企業文化を大切にする姿勢に感銘を受けた」といった声が聞かれた。

会員事業部事業推進チーム

4.22

大阪IRの整備計画を知る

交通観光部会 講演会



交通観光部会は、大阪府・大阪市IR推進局より講師を招き、「大阪がめざすIR」をテーマに講演会を開催した。

2030年の開業を目指す大阪IR（統合型リゾート）は、国際会議場や展示場、ホテル、カジノなどを備えた複合観光施設で、年間来訪者数約2,000万人、近畿圏で年間約1.14兆円の経済波及効果、約9.3万人の雇用創出が試算されている。

大阪府・大阪市は、IRの全体像や整備の進捗状況を説明し、「大阪IRは、世界水準のMICE拠点として関西全体の観光誘致や経済の発展に寄与するもの」と強調した。

地域政策部

5.14 生成AIの基礎知識・活用術を学ぶ

はじめてでも大丈夫！超入門編AI活用セミナー



生成AIの基礎知識やビジネス活用ノウハウを習得するため、(株)SYNQAI代表取締役の中本樹氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

中本氏は、「規模や業種を問わず、早く導入しないと企業間の競争力に大きな差が生じる。業務効率化に留まらず、成長戦略としてAIを活用すべき」と強調した。

日常業務に役立つ活用法として、動画を活用した転記作業の省力化やアウトプットの質を高めるプロンプト入力、画像生成による図解資料の作成について解説。ワークショップも交えて参加者は理解を深めた。

産業部産業振興チーム

5.19 ミツ星ベルト綾部工場を見学

企業経営委員会 特別見学会



企業経営委員会は、ミツ星ベルト(株)のマザー工場である綾部事業所の見学会を開催した。

同事業所は、自動車、二輪車、工作機械など、幅広い分野向けの産業用ベルトを製造している。当日は、同社従業員が自発的に業務改善に取り組む「QCサークル活動」の事例について説明を受けた後、通常は非公開の工場内を特別に見学。参加者は、ベルトの製造工程や実験設備に関する説明に熱心に耳を傾け、理解を深めた。

その後の懇親会では、今後の委員会活動に向けて活発な意見交換が行われた。

中小企業振興部

5.20 経済安全保障と企業の対応を学ぶ

国際ビジネス委員会



中東情勢の悪化を受け経済安全保障の重要性が増す中、国際ビジネス委員会は、東京大学大学院教授で地経学研究所所長の鈴木一人氏を講師に迎え、講演会を開催した。

鈴木氏は、「地理的な条件を重視する“地経学”に、経済的な視点を組み合わせた“地経学”をベースにした戦略が企業経営にも求められつつある」と現状を分析。経済が武器になる時代において、企業は否応なしに政治的対立に巻き込まれてしまうため、「原材料供給国や販売国の多元化、国産へのシフトといったリスク管理が必要」と強調した。

産業部国際チーム

5.27 会員企業間のネットワークを拡大

新会員懇談会



入会3年以内の会員事業所を対象に新会員懇談会を開催し、約150名が参加した。

(株)サンテレビジョンアナウンス部部長の湯浅明彦氏を講師に迎え、「マイク越しに見届けた“勝負の瞬間”—スポーツ実況で出会ったアスリートのリアル—」をテーマに講演会を実施。湯浅氏は、プロ野球監督のマネジメント術や、現役選手が試合に臨む際の姿勢・考え方を紹介し、「仕事への向き合い方や部下育成にも共通するもの」と語った。

交流会では、参加者同士で積極的な名刺交換が行われ、会員交流の輪が広がった。

会員事業部事業推進チーム